

ナシの作況について(6月10日分)

農技研果樹担当

1 生育状況等

- (1)「無処理幸水」満開後 50 日の肥大状況は平年と比べ- 1.4 日の開きであったが、60 日では、- 1.9 日となり、果実肥大はやや遅れ気味である。一方、GA 処理幸水は満開後 50 日の平年比は- 1.6 日であったのが 60 日では- 1.3 日となり、果実肥大は回復傾向。
- (2)「豊水」の果実肥大は順調。
- (3)「彩玉」の満開後 60 日における平年比は+10.4 日と良好。
- (4)「あきづき」の果実肥大も順調。

2 病虫害の発生状況

- (1)試験場の圃場では黒星病の果実感染等は見られない。一部生産者の圃場では、黒星病の果実感染が多いとの報告があり、今後も注意が必要。
- (2)ハダニ類の発生がナシ圃場の一部で確認されたので防除を実施。圃場により、ナミハダニとカンザワハダニの発生が分かっていたので、ナミハダニの発生圃場はカネマイトフロアブル、カンザワハダニの発生圃場はピラニカ水和剤を散布したところどちらも効果があった。ハダニ類の種類によって農薬の効果に差があるので、ハダニ類の種類を判別し、効果のある農薬を選択するとよい。また、ハダニ類の防除を行う前に下草の管理を行うことや葉の混んだところは余計な葉を整理し、農薬の付着をよくするなど耕種的管理を行うことが効果的な防除のポイントとなる。

3 補正摘果

順次、着果の見直しを行いながら、最終的な仕上げ摘果を行う段取りとなるが、今年は、6月初旬の降雹により、多目的防災網をすり抜けた細かな雹が果実にあっている場合もわずかながらあるので、残す果実は例年より、多少多めに残している。仕上げ摘果の際には、それらの傷等をよく精査し、取捨選択を行う。